

科目名	映像リテラシー A 1							年度	2024
英語科目名								学期	前期
学科・学年	放送芸術科 1 年次	必／選	必	時間数	30	単位数	2	種別※	講義
担当教員	笹本篤・草間巧・石田桃子		教員の実務経験		あり	実務経験の職種		映像制作	
【科目の目的】									
この科目を受講する学生は、映像制作やテレビ放送に関する基礎的な知識・技術のノウハウを得ることを目的とする。具体的には、テレビ放送の成り立ちから地デジ化、4K放送、5Gへの技術・視聴環境の変遷や、カメラ・照明・音声などの撮影現場に必要な、色の知識と基礎的な機材知識の習得を目的とする。前期では主にテレビ放送技術・知識を学び、後期で行う現代の映像制作環境学習への橋渡しとなるように進める。									
【科目の概要】									
この授業では、教員は黒板に板書きし、学生にノートに書かせる。書くことで脳を働かせ、必要箇所をまとめる習慣をつける。また、全ての技術はそこに至る目的や経緯がある。「なぜ そうなったのか？」を当時の時代背景を意識し、考えさせるように質疑を繰り返して、知識として残るように授業を進める。									
【到達目標】									
この科目では、学生が、日々生活している中で触れている映像（テレビ・WEBなどあらゆる媒体）がどのように現在の形になったのかを知ることで、現在の技術が多くの技術者や映像制作者のノウハウの蓄積で今に至ることを理解することが目標とする。放送（映像）業界においてどのような仕事が存在するのか 自身がどういった分野に興味・関心があるのかを把握するきっかけとなることを期待している。									
【授業の注意点】									
ノートは各自用意し、必ず授業内容のメモをとる。現在の放送（映像）業界のリアルタイムな状況も考慮して授業を展開するため、自身でも映像視聴環境を今一度見つめ直し、身近な物事として考えてほしい。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている		レベル3 ふつう			レベル1 要努力			
到達目標 A テレビのシステム	放送局から家庭までのテレビ放送の仕組みを正しく理解できる		放送局で仕事をする分には問題ない程度、放送の仕組みを理解している			理解がおぼつかない			
到達目標 B 映像の伝送まで	光、信号がいかに映像を構成しているか正しく理解できている		基本的な用語は理解できる			何が言いたいのかわからない			
到達目標 C 音声の特性	映像と共に音声の理解、扱いに問題がない		ある程度の音声の知識はある			知識がない			
【教科書】									
各回 必要に応じてレジュメ・資料を配布する。									
【参考資料】									
各回 必要に応じてレジュメ・資料を配布する。									
【成績の評価方法・評価基準】									
期末試験									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		映像リテラシー A 1			年度	2024
英語表記					学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価	備考
1	放送業界って何？①		放送業界って何？	テレビ放送はどのような作業工程から作られているか、ワード理解・フローを理解する		
			1			
2	放送業界って何？②		放送業界って何？	テレビ放送が成立する仕組みについて知る		
			2	(視聴率と広告収入、NHKと民放の違い)		
3	テレビ放送の成り立ち①		テレビ放送の	テレビが作られた時代(1950年代)から地デ		
			成り立ち①	ジ化(2012年)までの時代・技術背景の知識		
				習得		
4	テレビ放送の成り立ち②		テレビ放送の	地デジ化から現在(2019年)までの時代・技		
			成り立ち②	術背景と視聴環境変化の知識習得		
5	映像はどのように映し出されるか①		映像はどのように	ブラウン管、プラズマ、液晶、有機ELなど、		
			映し出されるか①	各テレビの違いについて知識習得		
6	映像はどのように映し出されるか②		映像はどのように	生き残ったテレビと生産中止になったテレビ		
			映し出されるか②	の経緯について知識習得		
7	放送規格、インターレース・プログレッシブ		放送規格、	テレビ放送にあたり、技術的なワード解説		
			インターレース・	と技術成立の経緯理解		
			プログレッシブ			
8	放送規格、タイムコード・DF/NDF		放送規格、	テレビ放送にあたり、技術的なワード解説		
			タイムコード・	と技術成立の経緯理解		
			DF/NDF			
9	映像を作る色(光の3原色)①		映像を作る色	光の3原色(赤・青・緑)の理解と、放送で		
			(光の3原色)①	の色の規格知識習得		
10	映像を作る色(光の3原色)②		映像を作る色	映像に関連するカラーバーや波形の見方を		
			(光の3原色)②	理解する		
11	HDR(ハイダイナミックレンジ)技術とは？①		HDR(ハイダイナミックレンジ)技術とは？①	映像収録時の色の幅について、現在 広がりつつあるHDR技術のワード理解		
12	HDR(ハイダイナミックレンジ)技術とは？②		HDR(ハイダイナミックレンジ)技術とは？②	HDR技術で撮影された映像の現像について		
				(カラーグレーディング・カラリスト)		
				の理解・知識習得		
13	音声技術(撮影における音とは？)		音声技術	映像に使われる音の役割と収録方法を理解		
			(撮影における音			
			とは？)			
14	音声技術(音の扱い方)		音声技術	音を扱う上での注意点や、人の心理に働く		
			(音の扱い方)	音についての知識を習得する		
15	振り返り・まとめ		振り返り・まとめ	前期の総復習を行い、全体のまとめをする		

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等